

認知症の人やその家族が安心して、いきいきと暮らせる社会を『オール福岡』で

1. プロジェクトの概要

- ・高齢者が増加し、その中でも単身高齢者や認知症の方が急激に増加することが見込まれる
- ・2025年には、団塊の世代がすべて75歳以上になることから、認知症施策は健寿社会のモデルを目指すにあたって非常に重要
- ・認知症施策全体を「福岡100」のリーディング事業「認知症フレンドリーシティ・プロジェクト」として推進

2. 認知症フレンドリーシティ・プロジェクトの主な事業

(1) ユマニチュード(R)の普及・拡大

- ・平成28年度より、家族介護者及び医療機関・事業所向けに実証実験を実施し効果を検証
- ・ユマニチュードによる認知症ケア技法を用いてケアを行うことで、被介護者の症状が落ち着く、介護者の負担軽減に効果があることを確認
- 【今後の取組予定】
- ・広く市民に普及する取り組みを実施
- ・家族介護者及び専門職向けの研修の継続
- ・地域住民を対象とした公民館講座，児童・生徒を対象とした講座を実施

(4) 認知症カフェ設置促進事業

- ・「認知症カフェ」とは、認知症の人やその家族、地域住民、介護や福祉などの専門職などが気軽に集い、情報交換や、お互いを理解する場を増やしていく
- 【今後の取組予定】
- ・平成30年度より、認知症カフェの開設支援のための補助金を創設

(2) LoRaWAN™を活用した見守り実証実験

- ・行方不明になった認知症の人の早期発見・早期保護や、介護者に負担軽減につながるよう、従来よりも省電力で軽量小型の機器を使用できる検索システムを構築
- ・「Fukuoka City LoRaWAN™」を活用した認知症の人の見守り実証実験を実施
- 【今後の取組予定】
- ・平成30年4月実証実験の利用者を募集
- ・6月実証実験開始
- ・6月～12月機器活用の精度，効果，利用感等を調査することで、見守り・検索可能なシステムとしての有効性を検証

(5) ICTを活用した認知症の早期発見・早期対応

- ・潜在的なMCI（軽度認知障害）の人や認知症の人が早期にその症状を自覚し、その人の状況に応じて医療機関の受診や予防対策の実施などにつなげられるよう、認知機能の簡易検査ができるタブレットを活用し、認知症が疑われる場合には、早期に医療機関の受診を勧めるとともに、認知症予防のきっかけづくりを行う。

(3) 「認知症にやさしいデザイン」ガイドラインの策定

- ・25年以上にわたり認知症にやさしいデザインの研究、実践を行うイギリスのスターリング大学認知症サービス開発センター（DSDC）の取り組みを参考
- ・認知症の人にストレスなく安心して生活できる環境を整備し、症状の悪化防止や介護負担軽減を図る
- 【今後の取組予定】
- ・平成30年度から策定委員会における検討や実証実験を行い認知症の人にやさしいデザインのガイドラインの策定を開始

(6) 認知症サポートチーム（認知症初期集中支援チーム）の拡大

- ・認知症の専門的な知識・技能を有する医師の指導の下、医療・介護の専門職が認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族を訪問し、観察・評価・家族支援等の初期の支援を集中的に行い、自立支援のサポートを行う
- 【今後の取組予定】
- ・平成30年度は認知症サポートチームを4区に配置
- ・認知症の医療体制や地域包括支援センターとの連携により、地域性を重視した早期発見・早期対応の体制づくりを行う